

業務の実績に関する評価結果の反映状況一覧

公立大学法人国際教養大学の令和2年度評価結果の反映状況

令和2年度評価における指摘事項	評価項目	令和3年度の業務運営等への反映状況
<p>学生の確保については、コロナ禍に対応した学生募集の取組は評価されるものの、特に県内出身入学者数に係る目標が未達成となっており、県内出身入学者の増加に向けた更なる取組が求められる。</p>	<p>I-2-(1)</p>	<p>○グローバル・セミナー入試の強化 県内高校生対象のグローバル・セミナー入試を中心に入試制度や実施方法等について、大学説明会や個別相談会において県内高校生に、また、県内高校訪問時に進路指導担当者に対し説明を行い、周知を図った。その結果、定員15名に対し45名が出願し、21名が合格・入学した。</p> <p>○広報活動の強化 秋田空港での広告掲出を通じて本学のブランドイメージや認知度の向上を図ったほか、秋田駅東西連絡自由通路での広告スペースを活用して、受験者層をターゲットとしたメッセージ性のある広告やオープンキャンパスの案内等を掲出した。また、若年層の利用率が高いSNSとしてInstagramの運用を開始し、2,000を超えるフォロワーを獲得するなど工夫を凝らした情報発信を行った。</p> <p>○アドミッション・オフィサー活動の強化 アドミッション・オフィサーが県内高校を訪問してPRを行った中で、面談をした3年生5名が最終的にグローバル・セミナー入試を受験し、合格・入学した。</p> <p>上記の取組により、令和4年4月入学者向け入試では、秋田県出身学生の出願者数が増加（80名：前年度比+11名）し、合計25名（グローバル・セミナー入試：21名、学校推薦型入試：1名、総合選抜型入試I：1名、一般選抜試験：2名）が入学した。その他、特別科目等履修生として県内出身者1名が入学した。</p>
<p>大学院学生の確保については、引き続き収容定員の充足に向けた取組が望まれる。</p>	<p>I-2-(3)</p>	<p>○大学院説明会、授業見学会、個別説明会の実施 新型コロナウイルス感染拡大を受けて、オンラインを活用した説明会（参加者：延べ47名）や授業見学会（同27名）、個別相談（同103名）を実施した。</p> <p>○現職教員の受入れ 英語教育実践領域において、秋田県教育委員会から現職教員1名が派遣され入学した。</p> <p>○広報活動の強化 大学院のパンフレットを日英両言語併記で作成・発行し、資料請求者や本学大学院の専門分野と関連する分野の学部を持つ他大学の関係教員に送付する等、広報活動に努めた。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により関係他大学への訪問やポスター掲示が困難となったことから、Facebook広告の掲出を令和2年度に続き実施し、大学ウェブサイトへのアクセスを誘導した。</p> <p>上記の取組により、令和3年度に実施した選考における出願者数37名のうち、令和4年度に24名（4月入学：11名、9月入学：13名）が入学した（9月入学は予定）。令和4年5月に実施した春選考（令和4年9月入学者を対象）の合格者11名も加えると入学定員30名を充足する可能性が高く、令和4年9月には収容定員60名を充足する見込みである。</p>

業務の実績に関する評価結果の反映状況一覧

公立大学法人国際教養大学の令和2年度評価結果の反映状況

令和2年度評価における指摘事項	評価項目	令和3年度の業務運営等への反映状況
<p>学校教育への支援については、コロナ禍においてもWeb会議システムにより交流を継続したことは評価される。今後、より積極的にWeb会議システムを活用して小・中学校等との交流活動を実施することにより、児童生徒が英語や異文化に触れる機会の増加や内容の充実が期待される。</p>	<p>Ⅱ-1-(1)</p>	<p>○小・中学校等との交流活動 オンラインを活用した交流プログラムの周知を図るため、県内外の学校教員を対象に交流内容や必要な設備などを案内する体験会を3回実施し、県内外の学校と自治体から14名が参加した。その結果、学生・留学生と全国の小中高生のオンライン交流件数は令和2年度の19回から43回に増加した。これらのオンライン交流の運営サポートのため延べ24名の学生が参加し、新たにクイズアプリを導入するなど内容に工夫を加えながら異文化理解の向上に協力した。 また、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じた上で段階的に対面活動を再開し、小・中学校及び高校の英語の授業等に23回派遣するなど、英語教育の向上等に係る取組に協力した。さらに、訪問交流も2回受け入れ、大学紹介やキャンパスツアーを実施した。</p> <p>【実績】 オンライン交流実施回数 43回（令和2年度：19回） 対面交流実施回数 25回（令和2年度：0回） 計68回（令和2年度：19回）</p> <p>○イングリッシュビレッジ・オンラインの実施 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した結果、対面でのイングリッシュビレッジは引き続き実施を見送り、オンライン版プログラムを学校単位で22回（参加者716名）開催した。（令和2年度：16回・参加者517名） また、イングリッシュビレッジのノウハウを生かした小学生向けのオンライン異文化理解教育プログラムを1回（参加者16名）開催するなど、県内外の児童生徒の英語コミュニケーション能力の養成に対する支援を継続した。</p>